

外来化学療法 服薬情報提供書について

国立病院機構 千葉医療センター薬剤部

1. 副作用評価について

副作用の評価については「有害事象共通用語規準 v5.0 日本語訳 JCOG 版 (CTCAE)」をご参照ください。下図に一例を示してあります。

なお、CTCAE に関する質問は当院にてお受けできません。JCOG のサイト <http://www.jcog.jp/index.htm> をご覧ください。

有害事象共通用語規準 v5.0 日本語訳 JCOG 版より引用、改変

*Grade5 は省略してあります

CTCAE v5.0 Term 日本語	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4
下痢	ベースラインと比べて<4回/日の排便回数増加; ベースラインと比べて人工肛門からの排泄量が軽度増加	ベースラインと比べて4-6回/日の排便回数増加; ベースラインと比べて人工肛門からの排泄量の中等度増加; 身の回り以外の日常生活動作の制限	ベースラインと比べて7回以上/日の排便回数増加; 入院を要する; ベースラインと比べて人工肛門からの排泄量の高度増加; 身の回りの日常生活動作の制限	生命を脅かす; 緊急処置を要する
便秘	不定期または間欠的な症状; 便軟化薬/緩下薬/食事の工夫/浣腸を不定期に使用	緩下薬または浣腸の定期的使用を要する持続的症狀; 身の回り以外の日常生活動作の制限	排便を要する頑固な便秘; 身の回りの日常生活動作の制限	生命を脅かす; 緊急処置を要する
悪心	摂食習慣に影響のない食欲低下	顕著な体重減少, 脱水または 栄養失調を伴わない経口摂取量の減少	カロリーや水分の経口摂取が不十分; 経管栄養/TPN/入院を要する	-
食欲不振	節食習慣の変化を伴わない食欲低下	顕著な体重減少や栄養失調を伴わない摂食量の変化; 経口栄養剤による補充を要する	顕著な体重減少または栄養失調を伴う (例: カロリーや水分の経口摂取が不十分); 静脈内輸液/経管栄養/TPN を要する	生命を脅かす; 緊急処置を要する
嘔吐	治療を要さない	外来での静脈内輸液を要する; 内科的治療を要する	経管栄養/TPN/入院を要する	生命を脅かす
口腔内痛	軽度の疼痛	中等度の疼痛; 身の回り以外の日常生活動作の制限	高度の疼痛; 身の回りの日常生活動作の制限	-
末梢性 感覚ニューロパチー	症状がない	中等度の症状; 身の回り以外の日常生活動作の制限	高度の症状; 身の回りの日常生活動作の制限	生命を脅かす; 緊急処置を要する
味覚異常	食生活の変化を伴わない味覚変化	食生活の変化を伴う味覚変化 (例: 経口サプリメント); 不快な味; 味の消失	-	-
手掌・足底発赤 知覚不全症候群	疼痛を伴わない軽微な皮膚の変化または皮膚炎 (例: 紅斑, 浮腫, 角質増殖症)	疼痛を伴う皮膚の変化 (例: 角層剥離, 水疱, 出血, 亀裂, 浮腫, 角質増殖症); 身の回り以外の日常生活動作の制限	疼痛を伴う高度の皮膚の変化 (例: 角層剥離, 水疱, 出血, 亀裂, 浮腫, 角質増殖症); 身の回りの日常生活動作の制限	-
皮膚乾燥	体表面積の<10%を占め, 紅斑やそう痒は伴わない	体表面積の10-30%を占め, 紅斑またはそう痒を伴う; 身の回り以外の日常生活動作の制限	体表面積の>30%を占め, そう痒を伴う; 身の回りの日常生活動作の制限	-
倦怠感	だるさがある, または元気がない	身の回り以外の日常生活動作を制限するだるさがある, または元気がない状態	身の回りの日常生活動作を制限するだるさがある, または元気がない状態	-
高血圧	成人: 収縮期血圧120-139 mmHgまたは 拡張期血圧80-89 mmHg; 小児: 収縮期/拡張期血圧>90パーセンタイル かつ<95パーセンタイル; 青年: <95パーセンタイルであっても, 血圧≥120/80	成人: ベースラインが正常範囲の場合は 収縮期血圧140-159 mmHgまたは拡張期血圧90-99 mmHg); ベースラインで行っていた内科的治療の変更を要する; 再発性または持続性(≥24時間); 症状を伴う>20 mmHg(拡張期圧)の上昇または 以前正常であった場合は>140/90 mmHgへの上昇; 単剤の薬物治療を要する; 小児および青年: 再発性または持続性(≥24時間)の >ULNの血圧上昇; 単剤の薬物治療を要する; 収縮期/拡張期血圧が>95パーセンタイルと 99パーセンタイルの5 mmHg上の間; 青年: <95パーセンタイルであっても, 収縮期血圧130-139 mmHgまたは拡張期血圧80-89 mmHg	成人: 収縮期血圧≥160 mmHgまたは 拡張期血圧≥100 mmHg); 内科的治療を要する; 2種類以上の薬物治療または以前よりも強い治療を要する; 小児および青年: 収縮期/拡張期血圧が99パーセンタイルより5 mmHg上回る	成人および小児: 生命を脅かす(例: 悪性高血圧, 一過性または 恒久的な神経障害, 高血圧クレーゼ); 緊急処置を要する

2. 【副作用評価】の記入欄について

該当する有害事象を聴取した際は、該当する症状欄にチェックしてください。
有害事象が発現していないときは何も記入しないでください。

例：有害事象が Grade1 の下痢だけだった場合

胃腸障害			
CTCAE v5.0	Grade		
	1	2	3
下痢	✓		
便秘			
悪心・食欲不振			
嘔吐			
口腔内痛(口内炎等)			

3. 【薬剤師としての報告・提案事項】について

アドヒアランス、コンプライアンス、薬物相互作用、
適正使用のために行った病院と共有しておきたい指導内容等についてご記載ください。

例：手足症候群予防のための保湿が不十分であったので、こまめに保湿するように指導した。

また、手が赤くなったりピリピリしたりする際は相談することを指導した

例：当院から支持療法として処方されたロキソプロフェンを定時で内服しているようなので、胃腸障害に注意が必要。

例：重篤な副作用の初期症状を失念しており再度指導した。

薬学的に現行の外来化学療法および支持療法について問題がない、あるいは経過観察で問題ないと判断された場合は

薬学的に現行の外来化学療法/支持療法で問題なし 又は 経過観察で問題なし にチェック☑してください。

4. 当院の連絡先・診療時間について

<代表電話番号:043-251-5311> <薬剤部 FAX 番号：043-251-8922> となっております。番号間違いにご注意ください。

診療日：平日 診療時間：8:30-17:00 土・日・祝祭日及び年末年始は休診となります。

5. 重篤な副作用発現が疑われる・判断に迷う場合

当院では外来化学療法導入時、患者さまに重篤な副作用の初期症状が出現または判断に迷う場合はいつでも速やかに病院に
連絡するようご説明しております。

例として、発熱性好中球減少症（37.5℃以上の熱）、間質性肺炎（息切れ・空咳・発熱）、など重篤な有害事象発現が疑われる場合は、
診療時間外でも当院代表電話番号まで速やかにご連絡をお願いいたします。連絡後にトレーシングレポートを送信してください。

6. 疑義照会について

処方医へ電話を転送します。当院代表電話番号にご連絡いただき、直接疑義照会をして下さい。

- ・ 処方医師不在あるいは対応不可能の場合は、改めて問い合わせをしていただくことがあります。
- ・ 緊急時で処方医が不在の場合は、当該診療科の医師が対応をいたします。
- ・ 診療時間外の緊急時で処方医師が不在の場合は、当直医師が対応いたします。
- ・ 処方内容に変更があった場合は、当薬剤部へ修正した処方箋のFAX送信をお願いいたします。

7. 外来化学療法 服薬情報提供書（連携充実用トレーシングレポート）についてご質問・要望がある場合

原則、千葉医療センター薬剤部 医薬品情報管理室 <211-yakuzai-di@mail.hosp.go.jp>までメールでご連絡ください。

翌診療日以降にご回答させていただきます。内容によってはお時間を頂戴いたします。

8. 検査値について

外来迅速検体検査加算を算定している患者さんは、検査値の結果を交付してあります。

9. 患者番号について

当院処方せんに記載のある、千葉医療センターの患者番号を記載してください。